

24/12/9 広沢一郎名古屋市長定例記者会見（名古屋城部分）

（名古屋市民オンブズマンによる半自動文字起こしアプリによる文字起こし）

記者：あと個人質問でですね。名古屋城について史実性とバリアフリーの両立、それから小型昇降機のできる限り上層階という話がありましたけれども、これは河村前市長が1、2階までの小型昇降機についておっしゃってましたが、またこことは少し方向、考え方が違うというふうに捉えられることもできるんですけども、どのようにお考えでしょうか。

広沢市長：そうですね私は基本的には何階までという、そういうことをですね今決めるべきではないと思っております、やはり可能な限り上層階へと。ただ、やはり復元の基準を外れないことと、江戸情緒を損なわないこと、これを守りつつ、どこまでこの小型昇降機をつけるかこれはチャレンジだなと思っています。

記者：あの選挙戦でもですねチャレンジという言葉をおっしゃっていたんですけども、それが少しより上層階できる限り、上層階という言葉で、何か一步踏み込んだ選挙戦からですねように聞こえたんですけども、ご自身としては一貫しているという思いですね。

市長：そうですね、私副市長時代にもですね確か答弁でその当時は最低でも一層。そこから上は、可能な限り上にチャレンジというようなそういうニュアンスで答弁をしておりますので、そこは変わってないですね。

記者：すいません。読売新聞の小池と申しますよろしくお願ひします。

今小型昇降機については基本的に今決めるべきではないというお話だったんですが、具体的にももちろん何年とか何年何月というのは決まってないと思うんですが、例えばこういった計画を策定する段階で決めたいとかそういったお考えはございますでしょうか。

広沢市長：これは文化庁にですね、最終的な答申を出すときまでには当然決めますので、それまでどうやって決めるかということがこれ問題になってくるわけで、まずそもそも物理的にまずつけられるかと。

これって結構重みのあるものですので、本当にどこまでまず物理的にどこまでつけられるか、まずこれを定かにしまして、あとそれがいわゆる江戸情緒、また物理的な問題がそこで解決をしましたら、それがどれだけいわゆる動線、来た方の動線に与える江戸情緒を損なうかという、それも専門家の方に入っていただいたりですね、ここにも障害者の方に参画をしていただいて、この動線だったら、それもだから障害者の方に使いやすい動線になるかどうかその辺も含めてですね、参画をしていただいて、そこで最終的にいろんなご意見をいただいて市として決めたいと思います。ただこれいつ頃までとはなかなか申し上げにくいところでして、まずその前に例の差別事案についての謝罪とですね、それをまずやっていかなければいけませんので、その辺丁寧にやっていきたいと思っています。

記者：ありがとうございます。繰り返し広沢市長がおっしゃられている江戸情緒、損なうとか、その判断に関しては、例えば専門部会に諮るとか、何か委員会に諮るとかお考えはございますでしょうか。

市長：これはまず専門家の方にいろいろご議論いただいてですね、ご意見をいただきたいと思っております。

ただやっぱり最終的に決めるのは市の事業ですので、市の方で決めさせていただきたいと思っております。

記者：市の方でっていうのは市長が主体的になってというニュアンスでよろしいですかね。

市長：はい。

記者：すいません 2 回目 NHK 宮川です。先ほどのお話の中でその差別発言の関係で謝罪をということでおっしゃっていましたが、それは今のところ具体的にいつぐらいを目途にですね、これも動きをしてるっていうのはありますか。

広沢市長：そこはなるべく早くやりたいなと思っております。ただ相手のあることですので、これも丁寧にやってなるべく早くとも

記者：謝罪されたいという意味はもう示されている状態ですか。

市長：すいません。局の方には言ってます。ちょっと相手方に伝わってるかどうかちょっとまだ確認してませんけど。

記者：あとはもう、今月ももう中旬に入ってくっていうことで、もうすぐ 2024 年まだ着任されてすぐですけども終わるっていうことなんですけど、今年中に市長としてはやっておきたいことっていうのは何かありますか。

市長：今年中にはですね今日の幹部会でも言ったんですけど、私、マニフェスト項目結構多いものですから、その目途をたてたいなあ、この案件はいつぐらいまでにやれるとかですね、これはもう少し時間がかかりそうだとか、これは早めにできそうだとかその辺の目途は立てたいなあと思います。今月中にできればというふうをお願いをしたところです。

記者：あとすいません。名古屋城の関係で恐縮なんですけど、小型昇降機何階まで設置するかっていうのは、これは何か新たに専門家の会議体を作るのか、それとも今あるですねバリアフリー検討委員会の部会ですか、その辺りどのようにお考えですか。

市長：特にどこの部会に諮るといふのを今決めてはいるわけではないんですが、やはりバリアフリーの観点ですねあとはやはりその江戸情緒、入った方がなんか異物感があるなというのがあまり強烈だとさすがにちょっとまずいと思いますので、その辺りはですね、いろんな各部会の方にもしくは、また新たにお話伺うかもしれないですけど、いろんな方から幅広くご意見を伺いたいと思います。

記者：意見を聞くための会議体みたいな新しく設置したりとかそういう感じになるんですか。

市長：会議体にするかご意見聴取するかまだちょっと決めてませんが、なるべく広いご意見伺いたいと思います。これバリアフリーですので、その多数決で決めるというようなもんでもないと思っておりますので、その辺のご意見を幅広くいただいた上で最終的に判断していきたいと思っております。

記者：これもあれなんですけど来年の復元検討委委員会までにはという、文化庁のそういう目標的には間に合いますか。

市長：それはそれに間に合えばこしたことはないんですが、ただやはり、例の差別事案もありましたし、まずまずはやはり丁寧に進めることの方を優先したいと思っております。

記者：わかりましたありがとうございます。